

帝京平成大学学長
沖永 寛子
おきなが ひろこ



「大学生と図書館」

帝京平成大学は平成20年4月に池袋キャンパスを開校します。初年度は約3千人の学生が同所で

学び、その分野は医療・健康・福祉・情報と多様です。教員は企業出身の方や、医師、看護師、リハビリ関係の方々、臨床心理士などいずれも実績・研究ともに優れた人材が揃っています。施設面では、最新の教育・実習設備を有し、学生が最新の知識と実践能力を確実に修得できるよう十分考慮しています。また、千人収容の大ホールでは、区民の皆様を対象とした、医療・健康に関する



豊島区立中央図書館報

第5号/隔月刊

2008

図書館通信

館通信

トピックス

- 巻頭言「大学生と図書館」(沖永寛子)
- レファレンスの事例
- 地域の特色を生かした図書館づくり
- 地域研究ゼミナール受講感想(石橋俊行)
- 文学読書会 受講生募集
- 明治女学校百年(伊藤繁栄)

発行 豊島区立中央図書館

東京都豊島区東池袋四一五一一

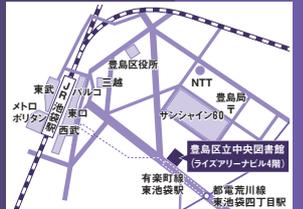
ライズアリーナビル四階 TEL:011-8444-1111

電話 011-3983-7866

FAX 011-3983-7904

ホームページ <http://www.library.toshima.tokyo.jp>

発行日 平成20年3月



る公開講座を開催したいと考えています。この度、区のご配慮のもと、「としまコミニティ大学」の六大学のひらに仲間入りすることができました。全国でもトップクラスの教員、最先端の教育設備、そしてハイ溢れる学生、こうした優れた要素と機会を活かし、本学の研究内容を取り組みを区民の皆様と共有していただけるよう積極的に取り組んでまいります。

式で少人数教育を行っており、折に触れて参考図書や読むべき本を紹介し、授業に取り入れるなどして読書への動機づけや読書体験の促進に力を入れています。また、人間愛にあふれた人材を養成するという建学の精神から、専門外の知識・教養を深めることも欠かせない修養であろうと考えています。その意味でも豊島区が新しい中央図書館をはじめとして、図書館の充実を図られていることは、学生の将来に大いにプラスになることと期待しています。これから区や図書館といろんな形で協力し、お互いを高めよう努力していく所存です。地域社会の健康づくりに貢献する帝

京平成大学をどうぞよろしく願っています。

東京大学医学部医学科卒業、東京大学大学院医学研究科修了。博士(医学)、医師。東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科学科長、2007年から帝京平成大学学長、日本内科学会、日本内分秘学会、日本糖尿病学会、日本甲状腺学会などに所属。日本内分秘病理学会若手奨励賞、アクロメガリーフォーム若手奨励賞を受賞。

新航路【4】

図書館サミット

「図書館でサミットをやりたい。」そんな話が図書館行政政策顧問の口から漏れたのは、昨年の10月頃でした。サミットって…何? 中央図書館が移転オープンして3ヶ月、移転前から続いていた職員への過重負担、10時まで開館という慣れない体制、閲覧席やエレベーターなどへのクレームの嵐等々のなか、今日を無事に終え明日を迎えるだけで精一杯の私たちには、

「サミット」という浮世離れた発想は全く理解できませんでした。しかし、どうやら顧問は本気らしい。しかも何やら壮大なビジョンをお持ちのようだという情報が入るまでにさほど時間はかかりませんでした。顧問が考えるサミットとは、「文字・活字文化の危機を共有し、現状を打開する方策を皆で話し合いマニフェストを掲げるのだ」というのです。

活字文化の危機といえ、つい先日も出版社の倒産や大学生の読書率が低いとのニュースが流れましたが、確かに国民の読書離れは危機的状況にあるといえるでしょう。平成17年に文字・活字文化振興法が公布・施行されましたが、法律で読書を振興しなければならぬほど末期的状況なのだとはいえます。この法律の具体化を目指して、財団法人文字・活字文化推進機構や活字文化推進会議は、シンポジウム、講演会などの啓発活動を盛んに行っています。また、法を所管する文化庁では、17年当時、文字・活字文化の日(10月27日)の制定を記念して「今後の文字・活字文化の振興の在り方について」というテーマでシンポジウムを開催しています。

法第5条には地方公共団体の責務として、「～文字・活字文化の振興に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。」とあります。具体的には、公立図書館の整備や内容の充実、文字・活字文化の振興に資する活動を行う民間団体の支援などですが、ここまで来てやっと、サミットが実現可能なものと思えてきました。役人の悪い癖で、なかなかゼロから作り上げるという発想がありません。何か始めるときにはまず根拠探しから入らな

自由学園明日館



前に進めない悲しいうさ。かくして、重～い腰を上げ、サミットの実現に向け予算獲得という初の一歩を踏み出すことになりました。(仮称)図書館サミットの20年度予算として審議される額は250万円です。これはサミット実行委員会に対し、開催経費、報告書の印刷経費などの補助金を交付するという内容です。実行委員会にした理由は、趣旨に賛同する団体が主体的に参加できるようにするためです。開催時期は11月、延2日間、あうるすぽっとと自由学園明日館を会場に実施する予定です。果たして参加してくれる団体があるのだろうか、サミットの効果が目に見える形で表れるのだろうか…心配は尽きません。でも誠心誠意訴えてみよう。顧問が言われたように、「お上に言われてやるんじゃない。地方が自ら行動を起こすのだ。」実行委員会の設立に先立ち、先月、内部で準備委員会を立ち上げ、素案づくりを始めました。次回以降も続報をお知らせしていきます。

Current Encounter

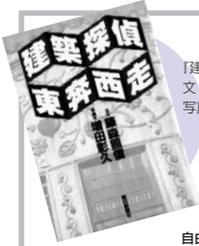
「素封家海老澤了之介のこと」
豊島区図書館行政政策顧問
粕谷 一希

わが家から東通りに出て、東に向かうと雑司が谷墓地、西に向かて明治通りになると、いまのジック堂のあたりに、戦前は小峰村木店があった。そこを左に折れた交番の先に、海老澤了之介邸があり、その広大な屋敷は、空襲で完全に焼けてしまったが、門柱だけが残り、ながく記憶に残った。海老澤了之介夫妻は戦後もバラックを建てて住まわっていたのだが、子どもも私には門柱だけが忘れられない。

この海老澤了之介氏は有名な素封家で、この近隣では高田町町長も勤められ、豊島区政にも大きな功績を残された人だ。年長の人々の間では知っている方もおられるが、海老澤邸の跡もなくなり、若い世代の人々には、記憶にない人々も多くなつてゆく。ただ、海老澤さんは「追憶—海老澤了之介編」という分厚い、私家版の書物を残されている。もと哲子夫人の三回忌に企画されたもので夫人の追憶談も多いが、同時に海老澤家のこと、町のこと、豊島区政のこと、さらに古く明治の青春時代や、平安の平将門の乱のころから名の知られた関東の豪族であったことなどが記録されていて無類に面白い。

また登場人物が多彩で、夫人の縁者小笠原三九郎、学友石橋湛山、豊島区長須藤善三郎を始め、推理作家の天下宇陀児や近隣の有力者後藤松之助の名もある。海老澤さんは愛妻家で、哲子夫人は日蓮宗の信仰厚い聡明な女性であつたらしい。

海老澤さんはのあたりの大地主であつたらしいが、「地主」という言葉には抵抗がある。それは経済関係しか表現せず、マルクス主義の小作農階級との対立を強調しているからである。素封家とは人望もあり、有徳の士を指す。われわれの身近なところどうした存在がいつ昨日まで呼吸していたと確認すると、人生が豊かになるように思う。



『建築探偵東奔西走』
文 藤森照信
写真 増田彰久
朝日新聞社

生涯の一冊 (4)



自由学園明日館 館長
有賀 寛

11月の(仮称)図書館サミットの会場となる重要文化財「明日館」はコンサートや結婚式にも利用されています。使いながら保存する、生きていく文化財です。

これは今をときめく建築史家であり建築家、今マークをつけるのも最近の建築家としての活躍からすると失礼か、の東大生産技術研究所教授藤森照信先生の若き日の著作である。80年代に相次いで建築探偵シリーズとして出版され、他にも楽しい題名「雨天決行」「神出鬼没」などがある。写真は、西洋館ならマダムの建築写真家、増田彰久氏の美しい建築写真が豊富に掲載されている。

建築の本と言っても、建築様式とか構造とかなんとなく「難しい」というイメージがあるがこの本はとにかく楽しい。今でこそ、東大教授も大学院生時代、ある財閥系当主のお屋敷を見に行き断られ、それでもあきらめきれずに崖を登って庭に侵入し、執事と番犬に追い回されたりする建築探偵ならではのアドベンチャーもある。一方「興味深い」という部分では、建物の陰にある地主や建築家の人生、歴史、エピソードが書き込まれ、見た目だけではなく、建物に興味があるなら、さすがに藤森先生は、史家である。生涯の(冊)というとなかなか重いが、この本に出会うた事が、文化財建造物に携わる現在の仕事につながっていると考えると、私にとっても「生涯の(冊)」なのだと思ふ。20年以上前の本なのに、なかか書店では手に入れないが、幸いな事に豊島区の図書館にはどれも2冊所蔵されている。建築のおもしろさを味わって見るには、これ以上ない入門書とて私は思う。

『春、卒業・入学 出会いと別れの本』

巣鴨図書館がおすすめする本



書名 『ロング・グッドバイ』
著者名 レイモンド・チャンドラー／著
村上春樹／訳
出版社 早川書房
所蔵館 中央・巣鴨・上池袋・池袋・千早

私立探偵フィリップ・マーロウが活躍するレイモンド・チャンドラーの名作『長いお別れ』が、村上春樹の翻訳により鮮やかに甦った傑作です。大都会の孤独と死、愛と友情を新しい訳でぜひお読みください。



児童向け

書名 『たんぽぽ』(かがくのとも傑作集14)
著者名 平山和子 文・絵
出版社 福音館書店
所蔵館 中央・駒込・巣鴨・上池袋・池袋・千早

春になると、あちこちで咲いている花、たんぽぽ。たんぽぽについて、どれくらい知っていますか?花や根の様子や、冬と春の姿の違いなど、色々な不思議がいっぱいわかる、大人も楽しめる科学絵本です。

書名 『リボン』

著者名 草野たき
出版社 ポプラ社
所蔵館 中央・駒込・巣鴨・上池袋



卒業式に先輩からリボンをもらうのが、卓球部女子の伝統。でも亜樹は、池橋先輩のリボンをもらえなかった…。となく毎日を通してきた亜樹だったけれど、それから少しずつ変わり始める。
中学3年生の亜樹と一緒に中学生生活最後の1年を過ごしてみませんか?

レファレンスとは?

今回は過去のドキュメントに関する事例をご紹介します。

事例その1

Q: 東京オリンピックに関する当時の新聞記事が見たい。できれば毎日新聞がいい。
A: 東京オリンピックは昭和39年10月10日～24日の開催。日付は「近代オリンピック100年の歩み」で確認しました。(ちなみに百科事典にも載っています) →「毎日新聞縮刷版 1964年10月号」をご案内しました。

図書館には過去の新聞記事をお求めの方も多く来館されます。中央図書館で所蔵している新聞資料をご紹介します。(各館で所蔵状況が違います。詳しくはお問い合わせください。)
【新聞縮刷版】
朝日新聞:昭和10年1月～(一部欠年あり)／豊島新聞(週刊):昭和35年～平成16年／日本経済新聞:昭和33年6月～／毎日新聞:昭和30年6月～／都新聞:大正元年9月～大正8年12月／読売新聞:昭和33年9月～

電子媒体の資料で日付を検索することもできます。こんな事例もありました。

事例その2

Q: 去年、安倍前首相が辞任表明したときの記事が見たい。詳しい日付は覚えていない。
A: 新しいニュースを事典類で調べるのは難しいです。「聞蔵Ⅱ」(朝日新聞のデータベース版)で昨年1年の記事検索を行い、9月12日付「安倍首相辞任表明～」の記事を見つけました。→「朝日新聞縮刷版 2007年9月号」と「聞蔵Ⅱ」をご案内しました。

電子媒体の資料は、中央図書館、電子資料閲覧席のパソコンでご利用いただけます。見出しや記事に含まれる言葉から検索できるので、日付を特定できない記事の調査や、特定のテーマに関する記事を探すのに便利です。
【ROM資料】
読売新聞:明治7年11月2日～明治45年7月30日、昭和21年1月～昭和45年12月
【データベース】
朝日新聞 聞蔵Ⅱビジュアル:昭和20年～

ボランティア紹介

図書館でボランティアとして、また自主的に活動されている皆様をご紹介します。



矢島勝昭さん

矢島勝昭さんは、画家であり、作家であり、郷土史の研究者であり、実に多才な方です。その絵には、戦前の池袋、雑司が谷あたりの風景とわんぱく少年や、戦後の荒廃のなかで逞く生きる人々が素朴に温かく描かれています。今、自分の記憶のなかの情景というものが、例えば井戸のポンプの口にぶら下がった布袋や、障子やガラス戸を繕う花形の和紙など、細かくとももていねいな、昨年、東京芸術劇場展示室で小池俊夫氏と「昭和の雑司が谷を描く2人展」を開催し、大盛況だったことは記憶に新しい。作家としては、根津山や致巻川など失われた郷土の歴史を題材に、絵本や紙芝居という子どもにもわかりやすい形で表現され、作品が図書館にも寄贈されている。また、「ご自宅に『子の手木工房』を構え、「寛延妻むらの角兵衛獅子」や「元禄五色の風車」という郷土玩具の復元も手

掛けている。現在は、池袋の戦中・戦後を二組の男女を通して描いた西条道彦のインターネット小説「あいつはぼく」にさし絵を提供されている。先年、城北大空襲による犠牲者の遺骨が地下鉄13号線の工事現場で見つかった。それをきっかけに、地域の方々が毎年、南池袋公園で戦没者慰霊祭を行っているが、矢島氏は第9回実行委員長として空襲犠牲者哀悼の碑を建てる運動もされていた。小説がインターネットで配信される時代になっても、人々の記憶のなかの戦争が終わっていないのだ。サラリーマン引退後、配給レシートのボランティアをしながら風景をハガキに描き給食に添えて届けていた、宣教師館で子どもたちに影絵を上演し仲間と稽古太鼓をかいた、などなど矢島さんの行動のつづきは、雑司が谷という土地とそこに暮らす人々の深い愛情の現れにはかならない。

特別展示のお知らせ 中央図書館では、テーマ別の特別展示を行っています。

4階特集欄

- シニアライフ応援シリーズ
「好評!!」春からの新生活に向けて、旅・ボランティア・趣味・生活の参考になる本をご紹介します。
- 落語と寄席文化
地域研究ゼミナール「豊島区の落語文化」に関する資料を特別展示しています。かつて大塚の地にあった寄席「大塚鈴本」の幹事伊藤光雄氏のご遺族秘蔵の資料は、5階特別展示コーナーでご覧いただけます。
- 池袋モンパルナス特集
地域研究ゼミナールで取り上げた「池袋モンパルナス」関係の資料を特別展示しています。池袋モンパルナスは豊島区が誇る郷土の歴史として資料の収集にも力を入れているもので、今回、それら所蔵資料を順次入れ替えながらご披露しています。
- 五木寛之特集
3月28日(金)から3月30日(日)まで劇場あうるすぽっとで上演されるタイアップ公演「青春の門 放浪篇」にちなんで、五木寛之の著作特集を行っています。
『青春の門』はもちろんのこと『人生の目的』『生きるヒント』等、著作をとおして作家の死生観を探る本の旅はいかがでしょう。

■オリンピック・北京特集

- 8月8日(金)から開催される北京オリンピックを祝って、過去のオリンピック関連資料と開催地「中華人民共和国・北京」の資料を展示します。
オリンピックの歴史と栄光をたどり、ひと足早くオリンピックムードに浸りませんか。
- 平山郁夫とシルクロード特集
3月15日(土)から古代オリエント博物館で開催30周年記念特別展「平山郁夫とシルクロードのガラス展」が開催されるので、平山郁夫作品集やシルクロード関係書、ガラスの歴史書などをご紹介していきます。

5階特別展示コーナー

- 俳句・ホトギス特集
春の訪れを感じたら「一句」ひねってみませんか。初めての方にも読みやすい俳句関係の図書を揃えました。また、明治30年に創刊され今も続く俳誌「ホトギス」の初期に発行されたものや、「夏目漱石」を特集した『新小説』『渋柿』『明治大正文学研究』『文芸』や、「三重吉全集」より『赤い鳥』『小猫』『柳』『桑の實』の4冊(いずれも背字が夏目漱石の筆による)をご紹介します。

地域の特色を生かした図書館づくり

中央図書館以外の地域館ではそれぞれの図書館でテーマを決めて、その館にあった特色ある本を集める図書館づくりを行っています。12月末現在で下表のような本が収集されています。上池袋図書館の「鉄道コーナー」・千早図書館の「横山光輝コーナー」のように特にコーナーを設けて展示しているところもあります。興味があるテーマがありましたら、一度地域の図書館にいらしてみたいかたがでしょうか。

図書館名	テーマ・冊数	収集資料の一例	
駒込図書館	園芸(庭園・桜含む)	162	『図説』日本庭園のみかた』『古代庭園の思想』 『高村光太郎』という生き方』『高村光太郎詩集』 『ひと工夫、わが家もバリアフリー』『在宅ケアをパワーアップ』
	梁井靈園に眠る著名人	2	
	高齢者関連(大活字本含む)	53	
	合計	217	
巣鴨図書館	とげぬき地蔵と地蔵関係	19	『とげ抜き一新築鴨地蔵縁起』『ちいさなお地蔵さま』 『中山道民家の旅』『古写真で見る街道と宿場町』 『手話の心理学入門』『みんなのこえが聴こえる』 『東京めぐりウォーキングー完璧イラストガイド』『4時のオヤツ』
	中山道関係	22	
	聴覚障害関係	159	
	合計	271	
上池袋図書館	鉄道に関する本	235	『鉄道廃線跡紀行』『小さい駅の小さな旅案内』 『ふたごのでんしゃ』『かっこいいぞJRの通勤電車』
	鉄道に関する本(児童)	59	
合計	294		
池袋図書館	アジア	52	『老いるアジア』『日本の太鼓、アジアの太鼓』 『袋び舎拝見』『地図で暮らしを学ぶ東京の昭和』 『池袋モンパルナスの壁画家たち』『東京都市文学散歩』
	池袋と周辺関連地域	8	
	池袋と文化・芸術	10	
	合計	70	
目白図書館 9月初旬まで工事休館中	バロック音楽	24	『バロック音楽はなぜ癒すのか』『目覚めのバロック』 『すぐわかる女性画家の魅力』 『小川未明童話集』『イチジクの木の下で』
	美術	1	
	赤い鳥	26	
	合計	51	
千早図書館	地域の文化人	8	『熊谷守一—油彩画全作品集』『守一のこしたのもの』 大活字本『むかしの味』『堪忍箱』 『おおさむこさむ』『ゆめにこここ』 『鉄人28号』公式ガイド』『『風林火山』武田兵法に学ぶ勝利への方程式』
	高齢者関連	88	
	子育て支援	241	
	横山光輝	292	
	合計	629	

上池袋図書館 「鉄道コーナー」



書名 ちいさなお地蔵さま
著者名 堀部幸男製作
清水啓二撮影
出版者 河出書房新社
所蔵館 巣鴨



書名 『池袋モンパルナス』の壁画家たち
—池袋モンパルナスそとろ歩き—
著者名 上笠一郎監修 尾崎興人監修
池袋モンパルナスの会責任編集
出版者 株式会社 明石書店
所蔵館 中央・上池袋・池袋・千早

豊島区伝統工芸

豊島区伝統工芸保存会会員の皆様をご紹介します。



東京手描き友禅 椿 逸雄さん

◆「少年のように」
東京手描き友禅の椿逸雄さん(千早丁目)は、キリッア50年を超えてなお、意欲的な創作活動を続けている。写真の、虎を描いた振袖は成人式の特注品で、勇猛な虎に洗めぬ麩脂の花、地色はエメラルドグリーンという華麗な逸品である。



カラーでご覧いただけないのが残念...
子ども頃から絵を描くことが好きで、お茶の水美術研究所やY.M.C.Aでデッサン・絵画を学び、模様師、神田茂穂氏に師事した。知り合いから手伝いを頼まれたことがきっかけで友禅の道に入られたとい

うが、天職だったので、たちまち仕事が増え30代で家が増えたのは驚きである。しかし、しだいに仕事としてこなすだけでは物足りない、「自分の思う、絵柄をおもしろく描いてみたい」という思いを抑えきれなくなり友人に打ち明けた。個展を開いてみてはと云われ、トントン拍子に話しは進んだ。夢の実現に近づけたものの作品はまだできていない。さあ大変と、寝る間も惜しんで、きもの6枚と帯を仕上げ、本番を迎えた。その個展も既に8回、「次はもっといいのをつくりたい」とあくことがない。個展10回を目指し、将来の夢を語る椿さんの表情は、少年のように輝いていた。



石橋 俊行さん

児童演劇の脚本、テレビ・舞台の演芸台本執筆などを経て、現在、徳間書店、祥伝社などの雑誌に小説を発表。

「雑司ヶ谷霊園に行くと、歴史上の人物の墓を漫然と眺めているだけでは、ただの石を見ていくにすぎません。ただ歴史を学ぶうちに、その墓石が、人に語りかけてくるようになります。ゼミナールの初日、講師の伊藤兼洪先生のおっしゃった言葉で、私は目からうろこが落ちました。

前々から、郷土の歴史には興味があったものの、じつは墓巡りだけは無意味だと避けていました。ところが先生の言葉で、墓が無機質な石のかたまりにしか見えなかったのは、自分の不勉強と不明さゆえだと、遅まきながら気づかされたのです。

夏目漱石、小泉八雲、竹久夢二、水井荷風、小泉忠順、中浜万次郎等々、雑司ヶ谷霊園に眠る人々について、伊藤先生の口からひとつひとつ語りだされると、たちまち同時代生きた歴史上の人物たちが面白く面白く連環されていき、気がつくとい、スケールの大きな歴史小説に浸っているような、わくわくとした気分になります。

そして、自分の住む土地が、歴史上の舞台のひとつとなつていることを知る喜び。また、歴史に登場する人

組を編成しています。創意工夫に満ちたプログラムを企画して、長年多くの観客に、映画という文化の持つ多様な魅力を引きつけています。観客の中から、世界で高く評価されている映画監督、マスメディアで活躍するクリエイターたち、国内外の第1線活躍する多くの社会人を輩出してきてきました。広い意味で「映画の学校」としての役割を果たしています。

現在も、映画をスクリーンで観て楽しむばかりではなく、書籍、雑誌から映画を読んだりするために書籍コーナーを設け、監督、スタッフ、俳優、文化人などから映画を聞いて楽しむトークショーを企画するなど、時宜を捉えたラインアップで年間500本を超える映画を上映しています。

私たちが、笑い、涙し、憤りたりして生きた同じ土地に、時を越えて、自分もついで立ち、やはり生きていくと感得することの愉し。

私思は、それだけでも、このゼミナールを受けてよかったと思う。

また、人生も五十代になり、仕事を離れた場所、ひととき沢山のひとと机を並べて学ぶことが、とても新鮮で楽しいものだといことも発見しました。このまま過去へトキタリアップして、子供時代を過ごした学校の教室に戻つたような、ちろちろと切なくほろりとした錯覚をおぼえます。

ゼミナールは、いろいろなかたちで分けられ、先生のお力を借りながら、自らゼミナールの勉強に入っていきます。その結果、どのような成果が出て、何が生まれるのか、楽しみでもあります。

そういうのは、伊藤先生が、雑司ヶ谷霊園を散策しながらの講義をされたとき、心に残る言葉を口にされました。「人生には、おまげが大切なことです。」

私の人生のおまげは、この地域研究ゼミナールなのかもしれません。そう思うと、得した気分になります。

お店探訪 ~新文芸坐~

「映画の学校」 支那人 永田 稔さん



《新文芸坐》は、現在のグリーン大通りに面した東京信用金庫本店の場所に1948年に作家、三角寛と作家仲間水井龍男、河盛好蔵、井伏鱒二、吉川英治たちが株主になり創立した映画館(人世坐)をルーツとして、1955年にオープンした映画館《文芸坐》《文芸坐地下劇場》、小劇場《文芸坐ル・ビリエ》を経て、2000年に再開しました。

新文芸坐は、創業以来貫して内外の良質な映画を、数多く、安い料金で、往年の名作、話題作、傑作を提供する名画座といわれる番

「雑司ヶ谷霊園に眠る人々を中心に」
「豊島区の群像」

地域研究ゼミナール受講感想

「豊島区の群像」 雑司ヶ谷霊園に眠る人々を中心に

「雑司ヶ谷霊園に行くと、歴史上の人物の墓を漫然と眺めているだけでは、ただの石を見ていくにすぎません。ただ歴史を学ぶうちに、その墓石が、人に語りかけてくるようになります。ゼミナールの初日、講師の伊藤兼洪先生のおっしゃった言葉で、私は目からうろこが落ちました。

前々から、郷土の歴史には興味があったものの、じつは墓巡りだけは無意味だと避けていました。ところが先生の言葉で、墓が無機質な石のかたまりにしか見えなかったのは、自分の不勉強と不明さゆえだと、遅まきながら気づかされたのです。

夏目漱石、小泉八雲、竹久夢二、水井荷風、小泉忠順、中浜万次郎等々、雑司ヶ谷霊園に眠る人々について、伊藤先生の口からひとつひとつ語りだされると、たちまち同時代生きた歴史上の人物たちが面白く面白く連環されていき、気がつくとい、スケールの大きな歴史小説に浸っているような、わくわくとした気分になります。

そして、自分の住む土地が、歴史上の舞台のひとつとなつていることを知る喜び。また、歴史に登場する人

明治女学校百年

伊藤 榮洪

書名 相馬黒光―黙移―
出版社 日本図書センター



アンビシャス・ガール相馬黒光

「日本の伝統のうちにキリスト教を生かす」という明治女学校の方向に強く惹かれ、この学校の情熱を最も体現した卒業生は、新宿中村屋を創業した相馬黒光だ。しばらく彼女の自伝的な『黙移』を読んでみる。

『黙移』は、昭和9年1月から6月まで雑誌『婦人の友』に連載されたのを加筆して11年に刊行されている。『婦人の友』は黒光の先輩として明治女学校に学び、雑司が谷(当時)に自由学園を創立した羽仁もと子によって創刊された月刊誌である。『黙移』はそこに、黒光の言葉によれば「報告小説」として「ありのまま」を書いたものである。

黒光は本名、良(りょう)、明治28年秋に旧姓の「星良(ほしりょう)」として18歳でフェリス女学校から転入学している。そのフェリス女学校も転入学で、そこから明治女学校に転じたのも、冒頭の明治女学校の教育理念への強い共鳴だった。

黒光は、小学校を出て入学した宮城女学校(現在の宮城学院大学(中・高併設)の前身)の「アメリカ一辺倒」で「日本人を日本の伝統を無視して教育する」方向に反発し、また当時最高のミッション女学校といわれていたフェリス女学校に転じて、あまりに狭義なキリスト教の解釈についていけない。日曜は安息日だから、寄宿舎では編み物も縫い物も許されなかったのだ。

明治女学校への黒光の憧憬はしかし、この教育の姿勢だけではない。彼女は小学生のときに通った押川芳義の教

会で、「アンビシャス・ガール」といわれていた。女性が「一個の人間として生きる」ことをそんな小さいころから、はっきりした主張としてもっていたからである。彼女が明治女学校に惹きつけられたのは、その「アンビシャス」を受けとめ生かせる場として信じたからである。

明治になって、人々が「ご一新」というように、新しい希望を生む時代が始まっていた。ことに5年に「国民皆学」の理想をかかげた学校制度の出発には、「身分」によらない生き方が、向学心のある若い人々の心を揺さぶった。札幌農学校のウィリアム・S・クラークが「ボーイズ・ビー・アンビシャス」と叫んだという話が感激をもって語られたのも、そうした時代の反映だった。

ところが、女性たちには門戸は大きく開かれてはなかった。「女には学問はいらない」といった、従属的な生き方がまだまだ世間の考えだった。そのときに「女性たちよ、自覚した生き方を」と『女学雑誌』で呼びかけた明治女学校の教育の理想は、現状からの脱出を願う若い女性たちに強い期待で迎えられたのである。

明治女学校は、黒光だけでは、開化期の若い女性たちの「アンビシャス」を受けとめるところだった。黒光より5年後に入学した小手川ヤエ(野上弥生子)の思いも、この熱い憧憬だった。

文学読書会 受講生募集

読書の楽しみと理解を深める読書会を開催します。

講師 伊藤 榮洪氏 豊島区図書館専門研究員

図書館からのお知らせ

(1) 現代文学読書会

内容 毎回、その時々々の注目作品を取り上げ、その読後感を自由に話し合う会です。

日程 全10回(8月・12月はお休みです)

毎月第2土曜日 第1回目: 4月12日(土) / 時間 午後2時~4時

募集 20名

(2) 古典文学読書会

内容 『万葉集』を教材に、それぞれの歌の作者や歴史的背景を講師が解説し、作品を鑑賞する会です。

日程 全10回(8月・12月はお休みです)

毎月第1木曜日 第1回目: 4月3日(木) / 時間 午前10時~12時

募集 10名

(1)(2)とも

会場: 中央図書館会議室 / 費用: 無料(指定テキストを各自持参)

文学読書会の受講を希望される方は、右下の申し込み方法をご覧ください。

図書館イベント情報

各図書館の連絡先

- 中央図書館 3983-7861
- 巣鴨図書館 3910-3608
- 池袋図書館 3985-7981
- 駒込図書館 3940-5751
- 上池袋図書館 3940-1779
- 千早図書館 3955-8361

◆ 児童・あかちゃんおはなし会

毎週、おはなし会を開催し本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てください。

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント	
	幼児・小学生	あかちゃん	3月	4月
中央図書館 児童コーナー	日曜日 2時	最終日曜日 11時	★2日・おはなしこうさく会 2時	★6日・おはなしこうさく会 2時 ★20日・おはなし会スペシャル~子ども読書の日記念~ 2時
駒込図書館 (駒込地域文化創造館)	土曜日 3時	—	★5日・こどもえいがかい 2時 「トム&ジェリー ジキル」(7分) 「うるほのせきのオチアイくん」(23分)	★19日・おはなしのはこスペシャル 3時 ビッグブックの読み聞かせなど
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 3時	最終水曜日 11時	★5日・パネルシアター 3時 ★12日・おはなしかいスペシャル 3時 ★26日・すかも こどもえいがかい 3時 「やさしいライオン」(27分)	★23日・子ども読書の日スペシャル(パネルシアターなど) 3時 ★30日・工作(こいのぼり) 3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 3時	最終水曜日 11時※	★26日・さくらんぼ えいがかい 3時※ 「ねずみくんのチョコキ」(19分) 「じこくのそうべい」(17分)	★23日・子ども読書の日スペシャル 3時※
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 2時	—	★22日・たんぽぽえいがかい 2時 「赤毛のアン」(42分)	★19日・おはなしたんぽぽスペシャル~(子ども読書の日) 2時 特別ゲスト(木坂涼氏)による絵本の読み聞かせなど
千早図書館 視聴覚室	水曜日 3時30分	水曜日 10時30分	—	★23日・ほんとおはなしかい子ども読書の日スペシャル 3時30分

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

◆ 千早進歩自由夢

申込不要。当日、千早図書館(千早2-44-2)へ直接お越しください。

●3月15日(土) 10時~12時 講演『絵本に見る子どもの戦争体験』

講師: シナリオライター 渡辺 臣蔵(わたなべ しばさ)氏

親や家族と離ればなれにされた学童疎開、体験した人には、今でも当時の切ない気持ちが忘れられない。「うちに帰りたい!」という子どもの叫び。学童疎開は、子どもの戦争体験だった。二度とあってはならない戦争。平和の大切さを語り継ぎ、伝えるこす絵本ができた。体験者が熱い想いを語るシンポジウム。

●4月19日(土) 10時~12時 懇談会「千早進歩自由夢20周年を記念して」

初代会長(故 沢寿次)をはじめ当時の幹事の提案により、共に学ぶ会として、会名をユニークで夢のある「進歩自由夢」(シンポジウム)と名づけて発足。初期は幹事が交代で講師をしていました。その後、マンネリ化を危惧し、地域の皆様に声をかけ講師をお願いしたり、また、講師をご紹介いただきながら、会を続けてきました。20年を振り返りながら、今後の講演内容や運営について、皆様の忌憚のないご意見、ご感想を参考にして、今まで以上に地域の皆様に喜んでいただける事業を行っていきたくと思います。

申し込み方法

往復はがきに①~⑥を記入し下記送付先へお送りください。

- 文学読書会
- 郵便番号
- 住所
- 氏名(ふりがな)
- 電話番号
- ご希望の読書会名
(現代が古典のどちらかを記入してください)

- ◆ 申込期限 3月14日(金) 消印有効
- ◆ 送付先 170-8442 豊島区東池袋4-5-2
ライズアリーナビル5階 中央図書館 企画調整担当
問合せ 電話3983-7861

※ひとつの行事に重複して応募された場合、2枚目以降は無効です。
※応募者多数の場合は抽選となりますので予めご了承ください。
※いずれも申込期限後1週間程度で当落の通知をします。
※お一人でもお申し込みできますが、その場合は別々の往復はがきでお申し込みください。

図書館カレンダー

○は土日祝	●は休館日	中央図書館	駒込・巣鴨・上池袋・池袋・千早図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
開館時間	開館時間	開館時間	開館時間	開館時間
平日 午前10時~午後10時	平日 午前9時~午後7時	平日 午前9時~午後7時	平日 午前10時~午後7時	平日 午前10時~午後7時
土日祝 午前10時~午後6時	土日祝 午前9時~午後5時	土日祝 午前9時~午後5時	土日祝 午前10時~午後5時	土日祝 午前10時~午後5時
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
3月	3月	3月	3月	3月
4月	4月	4月	4月	4月

目白図書館は建物の老朽化に伴う改修工事のため、平成20年9月初旬(予定)まで休館します。

編集後記

「梅は咲いたか桜はまだかいな」という端唄があるが、今年ほど春が待ち遠しいのも久しぶり。近郊には宝登山の桜梅や越生の梅林があり、桜は本家本元のメイジンを染井霊園はじめ区内各所で観ることが出来る。豊島区についていこう(真)

お詫の訂正
前号1頁 Current & Encounterの記事・本文2行目「赤版の芸術新書」とあるものは「赤版の岩波新書」と訂正します。